

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.63 加熱式タバコの誤飲の類似事例

事例	年齢：1歳4か月 性別：男 体重：8.9kg 身長：78.7cm	
傷害の種類	異物誤飲	
原因対象物	加熱式タバコ (写真1)	
臨床診断名	タバコ誤飲	
医療費	19,570円	
発生状況	発生場所	自宅リビング
	周囲の人・状況	母はキッチンで調理していた。キッチンはオープンキッチンであり、児は母から確認できる位置にいた。父は、児を挟んで母と反対側のリビングで片付けをしていた (児からは約2m離れた場所)。
	発生年月日・時刻	2016年8月5日 午後8時50分
	発生時の詳しい様子 と経緯	本児はリビング内のテーブルチェア (高さ70cm) に座っていた。テーブルチェアから60cmの距離に同じ程度の高さの棚があり、棚上に父の加熱式タバコ(残り1本)の箱が透明フィルムは除かれ蓋が容易に開いた状態で置いてあった。棚の端からタバコ箱までの距離は60cmであったが、テーブルチェアから身を乗り出し、手をいっぱい伸ばした状態になると手がタバコ箱に届く位置にあった。午後8時50分、テーブルチェアに座った状態の児が口をモゴモゴと動かしているのに母が気づき、母がその事実をすぐに父に伝え、父が確認すると児の口腔内にタバコが入っていた。口腔内にあったタバコは数ミリ程度であり、タバコ1本の半分以上はテーブルチェアの上に残っていた。すぐに父が指で掻き出し、口腔内のタバコは全て掻き出した。同日、当院救急外来を受診した。テーブルチェアにはベルトがなく、普段からチェア上に立ち上がることがたびたびあったとのこと。
治療経過と予後	受診時、誤飲後1時間で、特記すべき症状はなく、バイタルサインや身体所見に異常を認めなかった。自宅での経過観察を指示し、傷害予防教育を実施し帰宅とした。	



写真1

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.63 加熱式タバコの誤飲 類似事例 2

事 例	年齢：1歳1か月 性別：男児 体重：10kg	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	加熱式タバコ	
臨床診断名	タバコ誤飲	
医 療 費	2,046円	
発 生 状 況	発生年月 日・時刻	2017年3月30日 午後0時30分
	発生時の詳 しい様子と 経緯	自宅リビングで遊んでいるのを祖父が世話していた。目を離れた隙に、児がハイテーブルにつかまり立ちし、机の上に置いてあった新品の加熱式タバコのカートリッジの葉の部分の口を口に含んでいることに祖父が気付いた。口腔内に残っていた葉はすべて手で掻き出したが、具体的な量や飲み込んだかどうかはわからなかった。
治療経過と予後	受診時、誤飲後1時間半で、特記すべき症状はなく、バイタルサインや身体所見に異常を認めなかった。自宅での経過観察を指示し、傷害予防教育を実施し帰宅とした。	

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.63 加熱式タバコの誤飲 類似事例 3

事例	年齢：0歳8か月	性別：女児	体重：7.44kg	身長：65cm
傷害の種類	誤飲			
原因対象物	加熱式タバコ			
臨床診断名	タバコ誤飲 ニコチン中毒			
医療費	56,690円			
発生状況	発生場所	自宅		
	周囲の人・状況	両親と生活。主な養育者は母方祖母		
	発生年月日・時刻	2017年5月13日 午前9時30分		
	発生時の詳しい様子 と経緯	朝9時30分に両親が目覚めたら、テーブルの上の灰皿内にあった、使用後の加熱式タバコのフィルターを、8か月の子どもが口にくわえていた。タバコの葉が口内にあったため除去したが、除去できたのは半分程度までだった。救急車で午前10時に医療機関を受診した。		
治療経過と予後	<p>受診時全身状態は安定していたが、摂取量が不明であったため、何らかの中毒症状が出現する可能性を考慮して、入院の上経過観察とした。</p> <p>午前11時30分に2回嘔吐した。吐物の中にたばこの葉ははっきりとは混じっていなかったが、ニコチンの中毒症状の可能性を考えた。</p> <p>輸液にて経過観察を開始した。</p> <p>翌日、悪化がないことを確認して退院した。</p>			

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.63 加熱式タバコの誤飲 類似事例 4

事例	年齢：1歳1か月 性別：男児 体重：9.2g 身長：75.9cm
傷害の種類	加熱式タバコの誤飲
原因対象物	加熱式タバコ
臨床診断名	タバコの誤飲
医療費	65,730 円
発生状況	発生年月日・時刻 2017年11月3日 午前0時0分頃
	発生時の詳しい様子と経緯 11月3日両親が睡眠中（両親は午前0時0分頃に寝た）、本児が手の届く高さの棚の上にあった加熱式タバコの箱を、自分で取って遊んでいたようである。午前2時頃に両親が気付いた時、5本入りの箱が開けられていた。うち2本のタバコがかじられてつぶれており、棚の下に新品のタバコが1本、少しかじった状態のタバコが1本残っていた。当院救急外来を受診した。
治療経過と予後	午前2時5分に当院に到着した。午前2時10分に当直医（1年次研修医）が診察した。全身状態は良かったが、経過観察が必要と判断し、午前2時30分に小児科医が call された。小児科医は、午前3時前に救急外来に到着した。乾燥タバコではあるが、誤飲した量は2本と多く、また前日の午後11:00にミルクを飲んだという情報があったので、まだ胃内に残っていることを期待して胃洗浄を行った。胃の内容物は空であり、わずかに褐色のタバコ葉のような物が数片出てきたのみであった。活性炭を約10g注入して終了とした。その後、経過観察のために朝まで入院とした。 胃洗浄直後に吸気性喘鳴を聴取したが、その後特に症状はなく、呼吸・循環に変化を認めなかった。同日朝に退院し、その後は来院していない。（地域における当院の位置づけから、何かあれば来院するはずである）